

東京農工大学の“今”を発信しています！

YouTube、Instagram、Facebook、Twitterなどの公式SNSやWebサイトで東京農工大学の取り組みや活動状況、イベント、キャンパスの様子などをお伝えしています。

YouTube

受験生、一般の方向けの公式チャンネル登録して最新動画をチェック！

本学の紹介や学生・教員インタビュー、イベントの様子などを配信中。「農工大生のもすごい研究」では、学生達に研究のやりがいやおもしろさについて聞いています。実際の研究活動の様子や、研究室の雰囲気をご確認ください。



農工大生の1日



農工大生のもすごい研究II

Facebook

学生の活躍やイベント情報、先生のメディア出演予定をお知らせします！

学生の研究成果が評価され、学会などで表彰を受けた報告や、教員の研究がマスコミで取り上げられた情報など、見どころ満載でアップしていきます。ぜひご覧ください！



大学ウェブサイト

<https://www.tuat.ac.jp/>

本学の旬なニュース、イベント情報などを随時更新しています。大学紹介動画もご覧いただけますので、ぜひチェックしてください。



Instagram

@tuat_hakkenkoken

ハッケン コウケンと農工大を散策しよう

公式キャラクターの「ハッケン コウケン」が、大学の魅力、キャンパスの日常、研究の様子を発信していきます。ハッケンコウケンと活動してくれる「#ハッケンコウケンサポーター」の投稿にもご注目ください。



TUAT_HAKKENKOKEN



Twitter

@TUAT_all

東京農工大学の“今”をつぶやきます！

プレスリリースやイベント情報、サークルの活動、卒業生の近況など、バラエティに富んだ内容でつぶやいています。ぜひフォローしてください！



受験生向け特別サイト

受験生の気になるキャンパスライフ情報を大公開！

研究室やサークル、農工大生の1日の様子、活躍する卒業生など、学生生活の情報をご紹介します。受験生の皆様へ向けた情報もご覧いただけます。



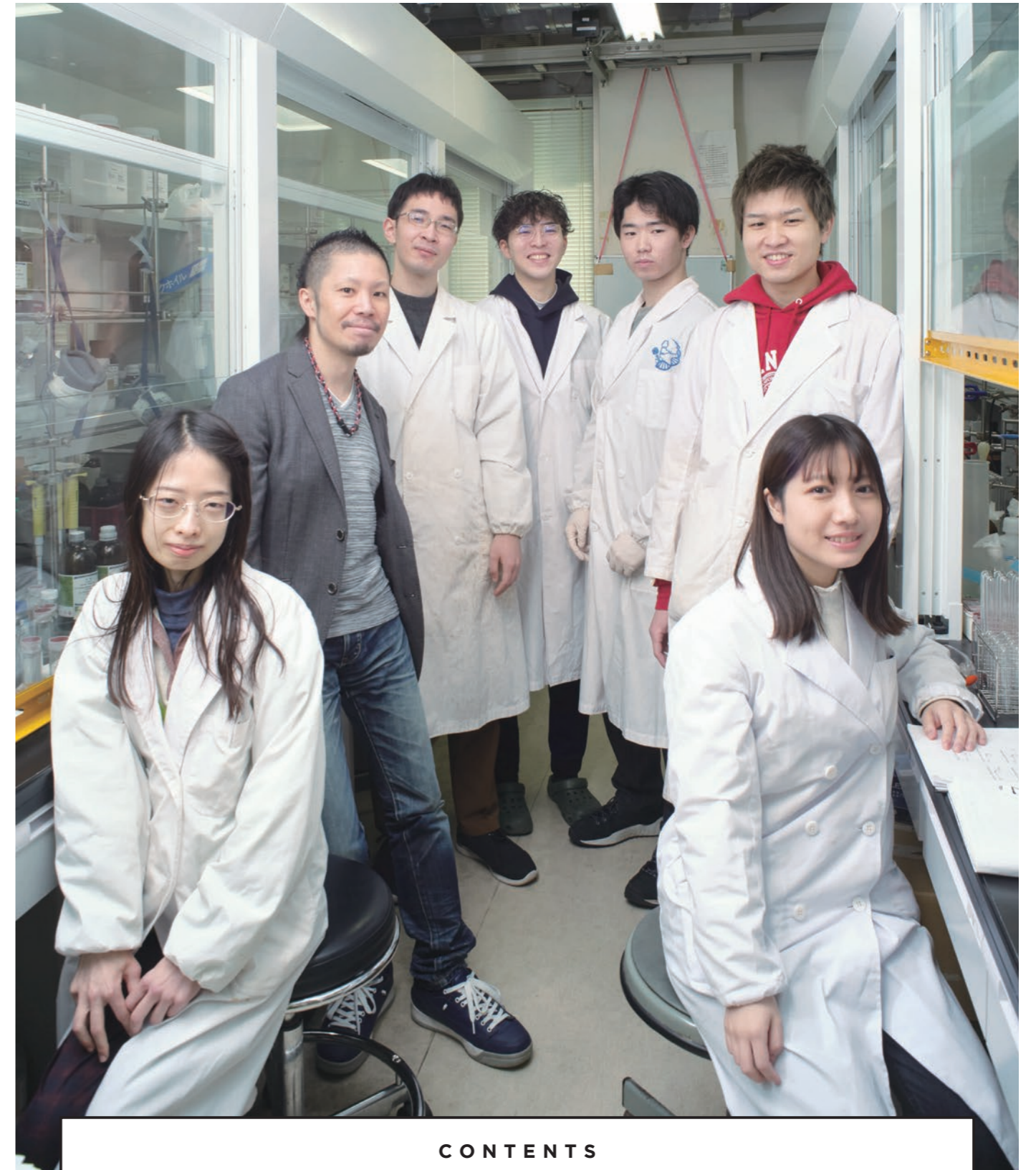
表紙写真 農学部 応用生物科学科 生物有機化学研究室 (担当：北野克和 教授 岡田洋平 准教授)
生物反応に着想を得た、新しい有機合成の方法論を開拓することが研究テーマ。環境に優しい持続可能なものづくり技術の開発を目指しています。

TUAT Express

この冊子は最近の東京農工大学の活動をお伝えるものです

2022-2023

農学部 応用生物科学科
生物有機化学研究室の皆さん



CONTENTS

■活躍する卒業生 ■研究室教育 ■キャンパスライフ ■就職実績 ■データで見る農工大 ■グローバル人材養成プログラム

最先端で活躍する農工大 卒業生

東京農工大学で学んだ卒業生たちは、学術研究分野のほか、産業界など社会で広く高い評価を受けています。第一線で活躍する卒業生2名に話を聞きました。

Agriculture



鹿島建設株式会社
土質・地盤グループ 研究員

榎谷 麻衣さん

2020年3月、東京農工大学大学院農学府農学専攻食農情報工学コース修士課程修了。所属していた自転車部では副部長を務め、メンバーと一緒に北海道から九州まで全国でツーリングを楽しんでいた。

Technology



東北大学
多元物質科学研究所 助教

玄 大雄さん

2014年6月、東京農工大学大学院生物システム応用科学府生物システム応用科学専攻博士後期課程修了。2020年に米国化学会（ACS）の最優秀論文賞を受賞するなど、大気化学研究者として期待されている。

大切な日本の国土を守る防災・減災に貢献したい！

鹿島建設の土質・地盤グループで、防災や減災のための調査・研究を行っています。対象は、地面や地下だけでなく、斜面、河川など多岐に渡ります。鹿島建設が工事を担うトンネルや道路、橋梁、河川堤防などのインフラの安全を維持するためのあらゆる対策を講じます。なかでも私は、河川案件を担当することが多く、先日山口県の河川堤防にセンサーを設置して、モニタリング調査を行ってきました。担当する現場は、まさに全国で、毎月東京から他県への出張がある生活です。農学部出身ですが、土木工学の領域に近い仕事をしていることになりましたね。

社会インフラを支える仕事に興味を持ったのは、高校時代のことです。ダムや水路な

どの水利施設に興味があり、資料を調べうちに「農業土木」という研究分野を知りました。一方、もともと大阪の川沿いの地域で育ったこともあり、河川の生態系や水質汚染の問題にも関心がありました。農業土木、水利用、生態系……こうしたキーワードで進学先を調べ、東京農工大学農学部地域生態システム学科にたどり着きました。

在学中は、「環境地盤研究室」で、「フィルダム」と呼ばれる土でつくったダムの耐震性を調べる研究に取り組んでいました。研究室で印象に残っているのは、つくばにある農研機構*の装置を利用して、遠心荷重模型実験を行ったことです。幅約1mのフィルダムの模型をつくり、地震波を与えて、どう崩れる

かを観察しました。国立の研究機関で、社会人と一緒に本格的な実験を経験できたことは、今の仕事で本当に役立っています。

現在は、研究員として年間5本ペースで研究論文を発表しており、来年（2023年）はロンドンでの国際学会にも参加する予定です。「土」というのは、調べれば調べるほど謎が多く、数式では表せない現象がまだまだあります。研究者として、これからも「土」の謎を追及していくつもりです。

この仕事における私のミッションは、誰もが安心して暮らせる国土を守るための防災・減災の施策立案に貢献することです。自然災害が増加傾向にある現在の日本において、大きな意義のある仕事だと自負しています。

*国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構

エアロゾルが気候変動に及ぼす影響を明らかにする

東北大学多元物質科学研究所で、「エアロゾル」を軸とした大気化学の研究に取り組んでいます。エアロゾルというのは、空気中に漂っている微粒子全般のことを言います。最近では「エアロゾル感染」というワードもよくニュースで目にしますが、これは空気中に病原体が含まれた微粒子＝エアロゾルが漂うことによって引き起こされる感染のことを言います。PM2.5や黄砂、花粉などもエアロゾルの一種です。

私は、このエアロゾルが地球温暖化などの気候変動に重要な影響を及ぼしている可能性に着目しています。エアロゾルは、地球に入ってくる太陽光を散乱・吸収する効果があり、また雲粒へと成長することで気候の形成と

密接に関わることがわかっています。すなわち、エアロゾルには温暖化を抑制する地球冷却効果があると考えられているのです。しかし、このエアロゾルにどのくらい気候の影響があるのか、明瞭な科学的知見は見出されていません。これを明らかにするために、私は「その場測定」というアプローチを考え、大気中の現象を実験室で再現し、一つひとつのエアロゾルを細かく検証して正確なデータを取得する方法を模索しています。従来の実験手法では平均化されたデータしか得られなかったことから、より確実性の高いデータの収集が期待できます。この革新性を評価していただき、JST（科学技術振興機構）の「創発的研究支援事業」の第1期生にも採択されました。

在学中は工学部化学システム工学科（現：化学物理工学科）で学んでいました。当時は成績が悪く、研究室の担当教員であるレンゴロ・ウレット教授にもご迷惑をかけたのですが……結果的にはそこで出会ったエアロゾル研究の面白さを現在まで突き詰めることになりました。特に、国が支援する研究領域で工学部と農学部が連携して行っていた「エアロゾル研究の植物・人間系へのインパクト」という先進的な課題に挑戦できたことが、研究者の道に進むきっかけになったと思います。農工大は教員ひとりに対する学生数が少ないので距離が近く、手厚くサポートしてくれる環境が魅力だと思います。ぜひこの場所で自分の興味のある分野に打ち込んでください。

研究室で身につく専門性と社会人力

東京農工大学の学びの拠点はなんといっても研究室。
熱心な教員の丁寧な指導のもとで専門性と社会人力が鍛えられます。

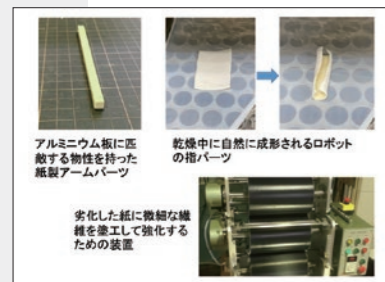
Pulp and Paper Science

農学部 環境資源科学科 再生資源科学研究室

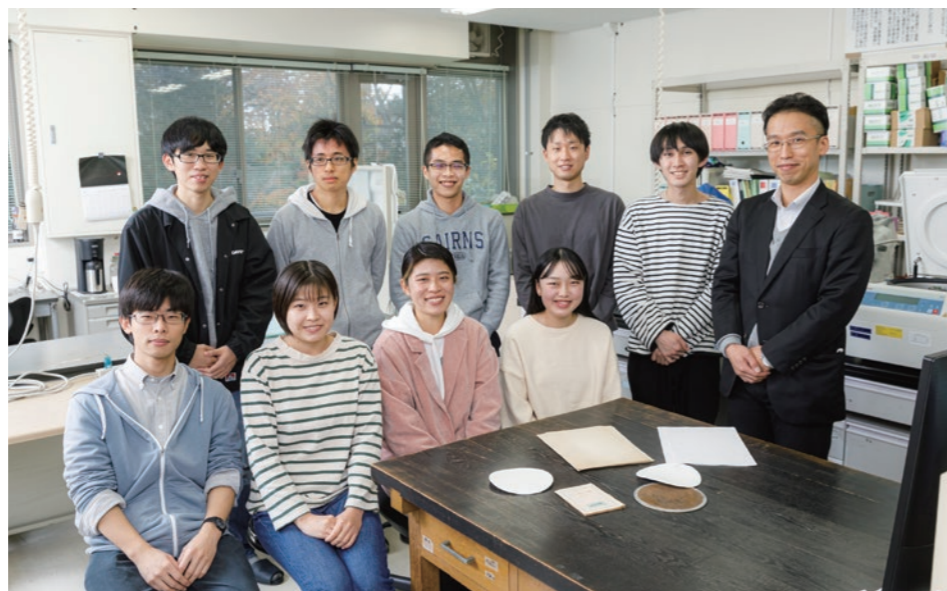
紙・パルプ素材のまだ見ぬ可能性に着目し
環境負荷の少ない新材料の開発を目指す！

紙やパルプといった植物由来の物質を使って、環境にやさしい材料をつくる研究を進めています。最近ではレジ袋の有料化や紙ストロークの導入など、環境汚染を引き起こすプラスチック製品の利用を抑える取り組みをにします。その一方で、このままIT化が進行すると、携帯電話やパソコンなどのデバイス、ロボットが社会にあふれるはずで、従来はそうした電子機器の部品にもプラスチックが使われてきましたが、より環境負荷の少ない材料が必要になってくるのです。

そこで期待されるのが紙やパルプです。特に注目すべきは、紙やパルプに「生分解性」があること。生分解性とは、自然界の微生物の働きによって最終的に水と二酸化炭素に分解される性質のことを言います。紙やパルプはセルロースという自然界にある分子構造を保持したままつくられるので、ゴミになってもやがて自然に還っていく。生分解性を持たないプラスチックと比べると環境負荷を抑え



紙・パルプ素材を用いて、材料開発や紙の保存技術を研究している



研究室では、教員と学生が1対1で対話する時間を長く持つことで、一人ひとりが自らの興味を追究し、個々の目標に向けたアウトプットができるようにサポートしている。



農学部 環境資源科学科
小瀬 亮太 准教授

九州大学大学院生物資源環境科学府森林資源科学専攻博士後期課程修了。博士(農学)。北海道大学大学院工学研究科博士研究員などを経て、2020年より現職。

な性能を出すために、木材から得られるパルプの繊維をナノサイズにまで細かくした「セルロースナノファイバー」を製造して応用するといった試行実験も行っています。

本学に入学する学生の中には、自然を守りたいという気持ちや環境問題を解決したいという思いを持った方が多いと思います。その実現の一助となるような材料開発を通して、環境を大事にしながら自らの人生も豊かにしていく方法を見つけてほしいと思っています。

Fluid dynamics, Multiphase flow

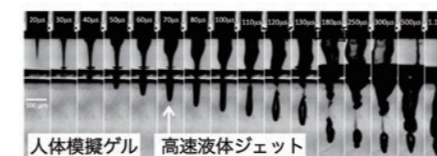
工学部 機械システム工学科 田川義之研究室

流体が持つ「急加速」の現象を利用し、
ジェット射出による無針注射器を実現する！

病院で注射を打ってもらうとき、痛さに怯えた経験はないでしょうか。注射は誰にとってもあまり気持ちのいいものではありませんが、その大きな要因は針があることです。痛みや恐怖心を感じるだけでなく、雑菌の混入や針を介した感染拡大などの可能性も。そうした問題を解消するために、10年以上前から針がない「無針注射器」の開発がさまざまな場所で進められてきました。

私たちの研究室では、秒速約340m以上の超音速で、蚊の針よりも細い形状のまま薬剤を体内にジェット射出するという「超音速マイクロジェット装置」を開発し、現在は実用化に向けた研究を進めています。

この技術の革新的な部分は、先が極めて鋭い状態でのジェット射出を可能にしたことです。これは、流体に急にインパクトを加えることで流れの集束が起こる「急加速」という現象を用いたもの。流体工学を専門とする我々の研究室だからこそこうした流体の特性



超音速マイクロジェットが人体模擬ゲルに貫入の様子を、超高速カメラでビデオ撮影した様子



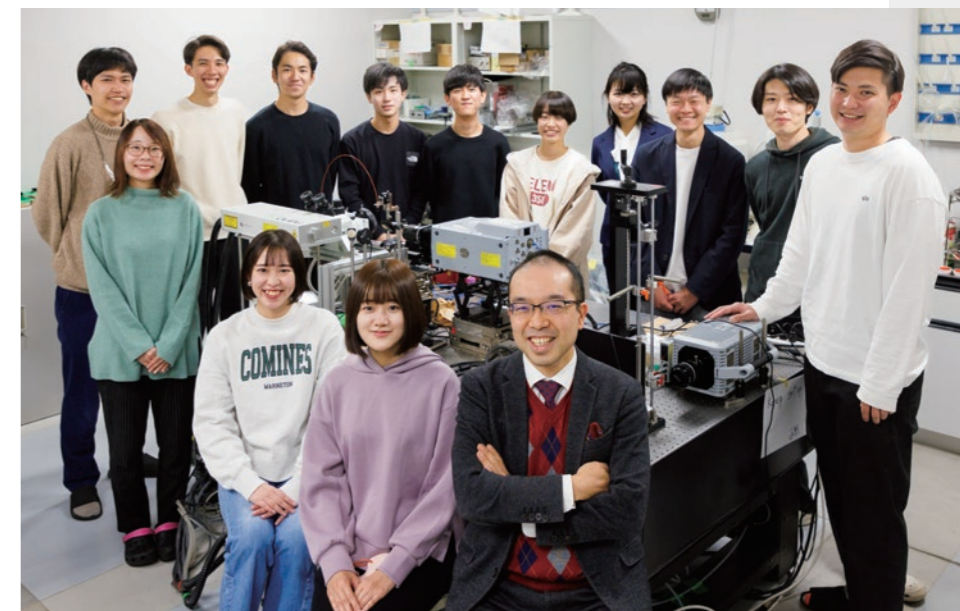
工学部 機械システム工学科
田川 義之 教授

東京大学大学院工学系研究科機械工学専攻博士課程修了。博士(工学)。専門は流体工学、混相流など。2013年より東京農工大学で指導にあたる。

を明らかにし、応用の可能性を見出したのだと自負しています。

研究室には1秒間に500万枚の写真を撮れる超高速カメラもあり、流体のメカニズムを追求するのに適した画像解析の実験設備が整っているのも特徴です。流体力学は大学になって初めて触れることのできる学問です。難しいイメージがあるかもしれませんが、だからこそ今までできなかった高度な研究や新しい学びに触れられるチャンスがあります。

当研究室のもうひとつの特色が「グローバル」である点です。学生の海外派遣や交換留学、海外から研究者を招いた招聘研究などを活発に行っています。研究室に滞在中の海外研究者と英語で議論し、資料を英語で作成するなど、英語で自分の研究について説明する場面も多いため、グローバルな力を養うことができます。こうした環境で、ぜひ一緒にこれまでにない医療機器や産業用デバイスの開発につながる研究に取り組みましょう！



日々ディスカッションをする機会が多いという田川研究室では、教員や先輩、後輩が分け隔てなく活発に議論を交わっている。



大学院農学部 環境資源物質科学プログラム 修士課程2年

青木 迅さん
埼玉県立川越高等学校出身
製品製造時に金型を使わずに紙・パルプ素材を3次元的に成形するための技術の研究中。セルロースナノファイバーを持つ高い収縮力を利用し、再現性を持って自然に成形できるようにするのが目標です。



大学院農学部 環境資源物質科学プログラム 修士課程1年

大類 夏帆さん
私立創価高等学校出身
ロボットのアームの部分を紙・パルプ素材で形成することを目標し、十分な強度を持つ多層板紙の作製に挑戦しています。工学部の研究室との実際のロボットを使った試行実験に刺激を受けています。



農学部 環境資源科学科4年

池田 昌矢さん
私立麻布高等学校出身
時間とともに劣化する酸性紙などの古い紙を良い状態で保存続けるために、微細セルロースナノファイバー(FCF)の特性を利用した強化処理の方法を模索中。FCFは透明なので、塗工しても文字の判読性を保てるのが面白い点です。



工学部 機械システム工学科4年

山形 侅平さん
東京都立駒場高等学校出身
超音速マイクロジェットを用いた無針注射の実用化に向けた流体の流れの検証や射出デバイスの改良に取り組んでいます。将来、海外で仕事をしたいので、このグローバルな研究室で視野を広げたいです。



大学院機械システム工学専攻 博士前期課程2年

横山 裕杜さん
仙台高等専門学校出身
柔らかい材料に液滴を当てた際にどのように衝撃が加わるのか。偏光カメラで得られた情報を正確に数値化しています。マイクロジェットの無針注射が「本当に痛くないのか」を検証するための研究です。



大学院機械システム工学専攻 博士前期課程1年

細川 明日架さん
私立蘭友学園女子高等学校出身
液体が入った試験管を自由落下させることで生じる急加速の現象を利用した液体ジェットの研究に取り組んでいます。研究室にあるハイスピードカメラなどを使用して画像解析しています。

農工大生はサークル活動も全力投球!!

東京農工大学では、共通の興味をもった学生が運動部や文化系サークルなどに集い、アクティブに活動しています。講義や実験と並行して、充実したキャンパスライフを送り、より豊かな人間性を育てている4団体を紹介します。

養蜂サークル



右から3人目がサークル代表の眞下さん。
メンバーは約30名で、毎月シフトを決めて巣箱を管理しています。



TUAT Beekeeping Club

新商品の開発を目指して ハチミツづくりに奮闘

農学部 地域生態システム学科 3年 眞下航海さん

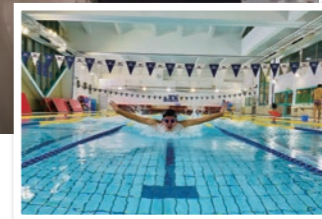
府中キャンパスにある果樹園のそばで、ミツバチを育てています。主な活動は、ハチの巣箱の状態を確認する「内見」という作業。内見を通じて、ミツバチの卵や幼虫の数を管理したり、天敵となるスズメバチやダニの対策を講じたりするなど、効率よくハチミツを採取するために工夫を凝らしています。最初は少し怖いイメージのあったミツバチも、一生懸命ハチミツをつくっている姿を見ているうちに、どんどん愛着が湧いてきました。この農工大産ハチミツを使用して新しい商品を開発し、他サークルの商品ともコラボレーションしていきたいと考えています。自然や食品に関心がある方には、ぜひ一度体験して養蜂の楽しさを知ってもらいたいです。

水泳部

TUAT Swim



真ん中が部長の平本拓己さん。2022年度の全国国公立大学選手権大会では、200m 背泳ぎでベスト8の入賞を果たしました



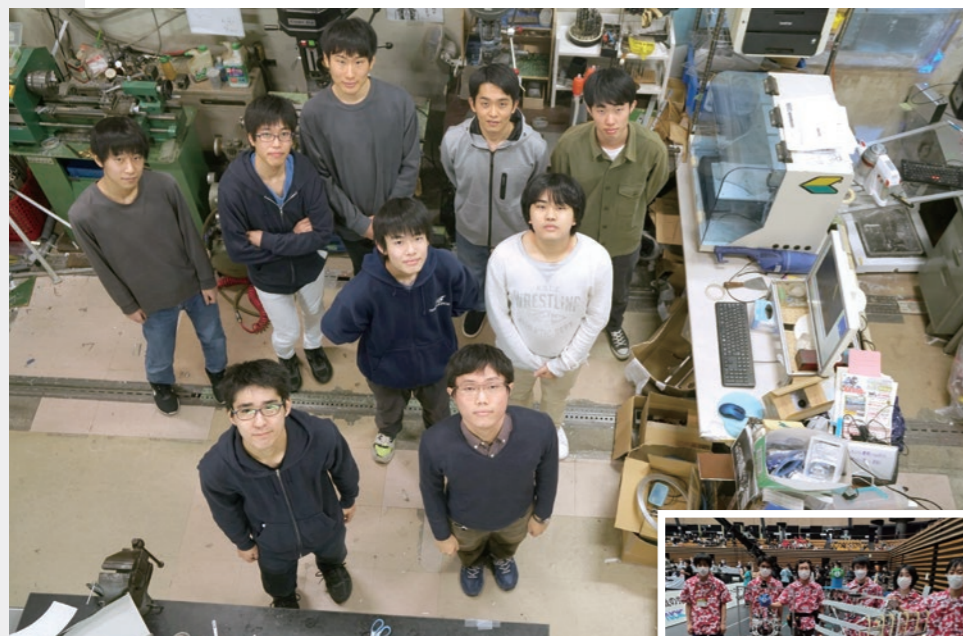
部員同士で切磋琢磨しながら 各々が記録アップに挑戦中!

工学部 応用化学科 2年 平本拓己さん

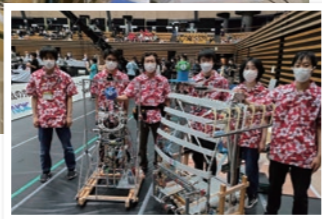
水泳部には現在、約20名の部員が在籍しています。私たちの目標は、毎年8月にある関東学生選手権大会と全国国公立大学選手権大会でよい結果を残すこと。そのために、国分寺にあるスポーツクラブで週3回90分の練習に取り組んでいます。水泳は個人競技なので、いかに個人のレベルを高めていくかが重要です。そうした中でも、部員同士で考えたトレーニングメニューを通して互いに切磋琢磨しながら、気づいた点や修正点をアドバイスし合ってみながら日々研鑽しています。中・高では練習量が多くてしんどかったという人にも、個人レベルで練習内容を調整できるのでおすすめです。興味のある方はぜひ一度体験会に訪れてみてください!

東京農工大学ロボット研究会 R.U.R

R.U.R Robotics Club



右手前が会長の近岡倫太郎さん。メンバーは全員工学部生で、小金井キャンパスの部室で活動中。右下写真は、NHK学生ロボコン2022に出場したときの様子。



目標は「NHK学生ロボコン」優勝 就職にもつながる活動です!

工学部 機械システム工学科 3年 近岡倫太郎さん

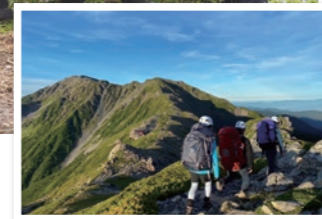
ロボット製作およびロボット競技会への出場を目的とした研究会です。メインの目標は、「NHK学生ロボコン」への出場で、2022年大会では決勝トーナメントに進みベスト6に入賞。ローム株式会社から特別賞もいただきました。その他、関東夏ロボコン2022準優勝、東海地区交流ロボコン2022準優勝という結果も残っています。製作するマシンの多くが自律型で、実践を通じて機械設計、電気回路、制御などを幅広く学ぶことができるのが魅力です。身についた知識や技術は、自らの研究だけでなく、就職活動のアピールでも役立ちます。多くの部員が初心者からのスタートなので気軽に見学に来てください。やりたいことに打ち込むなら大学時代しかない!

ワンダーフォーゲル部

TUAT Wandervogel



前列右から3番目が部長の松原陽さん。最初は登りたい山がなくても、上級生に連れられるうちに目標ができるのだとか。



登山初心者でも全く問題なし! 段階を踏んで目標の山に挑戦

工学部 機械システム工学科 3年 松原陽さん

私たちの活動は無雪期の縦走(山から山へ稜線を歩いていくこと)が中心で、希望者は沢登りや雪山登山、ボルダリングなども行っています。8月に「本合宿」という本番の縦走があり、これに向けて4月の新歓から月に1、2回ほど山に登ったり、トレーニングを重ねたりしながら心身を整えていきます。2022年の本合宿では、北アルプスの常念山脈や五竜岳への山行に挑戦。部員が登りたい山を目標に設定することができるのに加え、毎回OB・OGとともにルートを練るため、安心・安全に臨むことができるのが部活に所属している嬉しい点です。自然への興味さえあれば登山初心者でも全く問題ないので、ぜひ最高の景色を一緒に味わいましょう!

就職実績も堅実！農工大生の進路

2021年度実績 2022年5月1日現在

就職実績

農学部

【**生物生産学科**】 NECソリューションイノベータ、カネコ種苗、キリンビラレッジ、グリーンウィングスジャパン、ケー・イー・シー、コミュニケーションサービス、コメリ、シャトレーゼ、ジョンソン・エンド・ジョンソン、全国農業協同組合連合会(2名)、日鉄ソリューションズ、ピクセルコーポレーション、フューチャー、ブレンバンク、ベンダーサービス、森永乳業、吉村造園、農林水産省(3名)、愛知県、進学/東京農工大学(29名)、東京大学(5名)、筑波大学

【**応用生物科学科**】 IBM、あかさき設計、ichi、エクシオモバイル、システム情報、食品環境検査協会、タマノイ酢、BEARTAIL、ユアソフト、リクルート、農林水産省(2名)、進学/東京農工大学(62名)、東京大学(2名)、東京医科歯科大学、山梨大学、京都大学、九州大学

【**環境資源科学科**】 熊谷組、JCOM、東京エネシス、みずほ情報総研、三井住友信託銀行、関東管区警察局、特許庁、埼玉県、横浜市、進学/東京農工大学(46名)、北海道大学、東京大学(4名)

【**地域生態システム学科**】 アニコムホールディングス、アルファシステムズ、鹿島建設、クレオ、国土防災技術、小林土木緑化、清水建設、昭和造園、ジルコ、大王製紙、東京電力ホールディングス、内外エンジニアリング、日本赤十字社、バスコ、フジヤマ、星野リゾート・マネジメント、銘建工業、メンバーズ、米久、農林水産省(3名)、林野庁、国土交通省航空局、都市再生機構、埼玉県、東京都、品川区、長野県、佐賀県、進学/東京農工大学(27名)、東京大学(4名)、京都大学(2名)

【**共同獣医学科**】 WOLVES Hand、オカダ動物病院 さがみ総合動物医療センター、ガイア動物病院、鹿児島NOSAI、協同乳業、クレハ、埼玉動物医療センター、滋賀県農業共済組合、新習志野どうぶつ病院、末松どうぶつ病院、生化学工業、東京大学動物医療センター、日本中央競馬会、ニプロ、日本メジフィジックス、ハル犬猫病院、ハロー動物病院、北海道農業共済組合連合会、宮崎県農業共済組合、ミヤリサン製薬、武蔵国どうぶつ医療センター、与野動物医療センターそよがぜ動物病院、北海道、東京都、長野県、兵庫県、進学/東京農工大学、北海道大学

農学府

【**生物生産科学コース**】 クリエイトイブジャパン、クロスフィールド、生活品質科学研究所、全国農業協同組合連合会(2名)、全国酪農業協同組合連合会、全農グリーンリソース、大東カカオ、宝ホールディングス、タマノイ酢、ツムラ、ティー・アンド・シー、東色ピグメント、ニチレイフーズ、日清丸紅飼料、日本原子力研究開発機構、日本コーンスターチ、日本タタ・コンサルタンシー・サービス、日本テトラパック、日本プロセス、農業・食品産業技術総合研究機構(2名)、ハウス食品、プロシップ、ホクレン、みんなのこぼ舎、ワールドインテックR&D、府中市、三重県、進学/東京農工大学(3名)、University of Bern

【**応用生命化学コース**】 アース製薬、アサヒホールディングス、天野エンザイム、アルピオン、いなば食品、インテック、エスピー食品、オリエンタル酵母工業、カゴメ、極洋、キリンホールディングス、クラシエ製薬、阪本薬品工業(2名)、サッポロビール、サティス製薬、高砂香料工業、テクノプロR&D、ニコン、日清オイリオグループ、日新化学研究所、日本血液製剤機構、日本食品分析センター(3名)、日本分光、ハーゲンダッツジャパン、フィルジェン、フューチャー、マイクロメモリジャパン、ミヨシ油脂、農林水産省、新潟県、川崎市、進学/東京農工大学、京都大学

【**自然環境資源コース**】 アイレックス、アグロカネショウ、アジア航測、アジレント・テクノロジー、エイト日本技術開発、エクシオグループ、エス・ディー・エス バイオテック、SCSK、NJS、ENEOS、エバラ食品工業、王子ホールディングス、オープンリソース、科学技術振興機構、学究社、キーエンス、協友アグリ、協和発酵バイオ、クリタス、建設環境研究所、建設技術研究所、公園財団、Thermo Fisher Scientific、J&T 環境、シノプス、シミツク、ジャパン・リニューアブル・エナジー、新エネルギー産業技術総合開発機構、Sky、ダイヤコンサルタント、高津製作所、タケエ、日産化学、日本製紙(3名)、日本トールカンパニー、ノダ、パシフィックコンサルタンツ(3名)、パナソニック内装建材、日比谷アメニス、ブルボン、ベジテック、ホクト、北海道開発局、前澤工業、松田産業、ミヨシグループ、武蔵野、レンゴー、六甲パター、環境省(2名)、教員、埼玉県、静岡県(2名)、山梨県、進学/東京農工大学(9名)

【**食農情報工学コース**】 いであ、エヌ・ティ・ティ・データ、構造研究計画所、清水建設、武揚堂、リンクアンドモチベーション、農林水産省(2名)、葛飾区

【**地球社会学コース**】 カネコ種苗、蒲都市生命の海科学館、キューブシステム、信金中央金庫、トライアルカンパニー、日本政策金融公庫、農林中央金庫、ノースイ、ハート、VSN、船橋屋、ロート製薬、農林水産省、秦野市、進学/東京農工大学

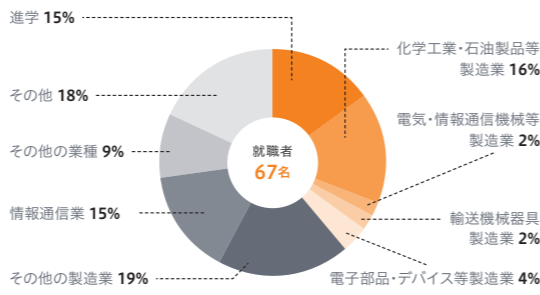
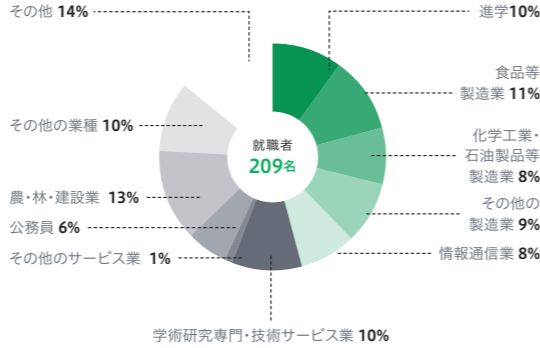
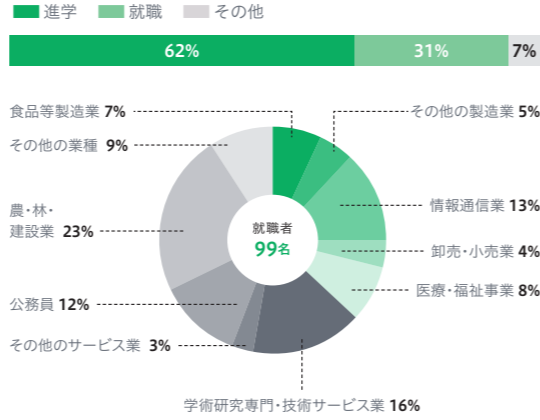
【**国際イノベーション農学コース**】 アビームコンサルティング、インテック、コンビ、サラヤ、ダイサン、電業社機械製作所、東京海上ディーアール、日清食品、日本農業、丸紅、Institute of Policy and Strategy for Agriculture and Rural Development、Ministry of Agriculture and Rural Development、Cambodian Agricultural Research and Development Institute、National Center for Agricultural Knowledge and Innovation、Uzbekistan、People Committee of Quang Ngai Province、People Committee of Ba To District、進学/東京農工大学(4名)、Samarkand Branch of Tashkent State Agrarian University、National Institute of Molecular Biology and Biotechnology、University of the Philippines Los Baños

【**環境資源物質科学専攻**】 ガイアックス

生物システム応用科学府

【**生物機能システム科学専攻**】 NECソリューションイノベータ、NTTデータニューソン、エム・アール・アイ リサーチアソシエイツ、キーマネジメントソリューションズ、クラレ、KSK、コニカミノルタ、サイバーエージェント、JERA、上海浦发銀行杭州分行、正田醤油、信越化学工業、住友ケミカルエンジニアリング、ソントン食品工業、大気社、大協精工、大日精化学工業、太陽日酸、帝人、鉄道総合技術研究所、デンソー、電通国際情報サービス、東京精密、東洋製罐、東洋紡、TOTO、Donuts、凸版印刷、日清製粉、日東紡績、日本電気(2名)、ヌヴォンテクノロジージャパン、パナソニックデバイスコンポーネント、日立情報通信エンジニアリング、日立造船、プリチストーン、三菱ガス化学、三菱ケミカル、三菱重工業、三菱電機エンジニアリング、ミネベアミツミ、ライオン、ルイード、川崎市、進学/東京農工大学(10名)

【**食料エネルギーシステム科学専攻**】 住友化学、竹中製作所、BGI JAPAN、進学/東京農工大学(2名)、横浜国立大学



工学部

【**生命工学科**】 EPメディエイト(2名)、エビナ電化工業、フジフーズ、山崎製パン、警察庁科学警察研究所、進学/東京農工大学(73名)、東北大学、東京大学、東京医科歯科大学(2名)、服部栄養専門学校、奈良先端科学技術大学院大学、京都大学

【**応用分子化学科**】 アグレックス、クラレトレーディング、日本コントロールシステム、Matcher、長野市、進学/東京農工大学(37名)、東北大学、東京大学、横浜国立大学、名古屋大学(2名)

【**有機材料化学科**】 個別指導塾スティー、大日本住友製薬、千代田グラビヤ、東芝ライテック、進学/東京農工大学(39名)、東北大学(2名)、東京大学

【**化学システム工学科**】 長瀬産業、進学/東京農工大学(37名)、東京工業大学(2名)

【**機械システム工学科**】 アウトソーシングテクノロジー、NTTデータ、NTTデータ先端技術、クボタ、小糸製作所、三機工業、情報技術開発、セプテーニ・ホールディングス、日産オートモーティブテクノロジー、日本航空電子工業、パーソルエクセルHRパートナーズ、東日本旅客鉄道、日立ハイシステム21、フェニックスシステム研究所、富士電機、古河機械金属、フレックシステムズ、ベース、牧野フライス製作所、マクシスエンジニアリング、マツダ、マレリ、ミクニ、川崎市(2名)、進学/東京農工大学(94名)、筑波大学、東京大学(3名)、法政大学

【**物理システム工学科**】 アルファクス、キッズウェイ、シャープ、ソフトバンク、ソリューション・アンド・テクノロジー、東京システムハウス、トビーファスナー工業、トヨタ自動車、日産オートモーティブテクノロジー、日本水産、パーソルR&D(3名)、BFT、富士通、UTエーム、教員(2名)、経済産業省、進学/東京農工大学(30名)、東北大学(2名)、東京大学、京都大学

【**電気電子工学科**】 インターネットイニシアティブ、川口内燃機製造、スズキ(2名)、大成建設、タキカワエンジニアリング、東京ロボティクス、東芝キャリア、東日本旅客鉄道、リコー、東京国税局、八戸市、進学/東京農工大学(75名)、東京工業大学(2名)、名古屋大学、大阪府立大学

【**情報工学科**】 アクセンチュア、アルファシステムズ、インターネットイニシアティブ、エヌ・ティ・ティ・コムウェア、NTTデータ・アイ、エム・オー・シー、小川裕平税理士事務所、カールビット、くすりの窓口、コスモテクノス、コナミアミューズメント、酒井医療、Sansan、システナ、SUBARU、全労災システムズ、ソフトバンク、ティアック、電源開発、日本トムソン、パリュールコマース、バンドイナムコスタジオ、日立製作所、ベース、ルイード、気象庁、進学/東京農工大学(47名)、筑波大学

工学府

【**生命工学専攻**】 アールビーエム、アウトソーシングテクノロジー、朝日インテック(2名)、アテック、アビームコンサルティング、EPクロア、出光興産、栄研化学、H.U.グループホールディングス、SBカワミ、SBテクノロジー、LSIM安全科学研究所、大島橋本舗、オリンパス、花王、キオクシア、コスモエネルギーホールディングス、シミック、住友重機械工業、住友電気工業、生命科学インスティテュート、積水ポリマテック、積水メディカル、太陽ホールディングス、デンカ、東亜道路工業、東ソー、東洋紡、トクヤマ、凸版印刷、ニッポン、ニプロ(2名)、日本ジェネリック、日本食品分析センター(3名)、日本電子、農中情報システム、日立製作所、丸善石油化学、万田発酵、三菱ガス化学(2名)、武蔵エンジニアリング、Meiji Seika ファルマ、ヤッホーホールディング、進学/東京農工大学(10名)

【**応用化学専攻**】 アルプスアルパイン、エーザイ、NOK、エヌ・ティ・ティ・データ、NTTドコモ、キオクシア(2名)、キャノンITソリューションズ、黒龍堂、サッポロビール、サミー、SUMCO、システムサポート、資生堂ジャパン、シノテスト、昭和電工、信越化学工業、神鋼環境ソリューション、新電元工業、シンプレクス・ホールディングス、SUBARU、住友精化、住友電装、積水メディカル、大日本印刷(2名)、太陽ホールディングス、大和紡績、DNPファインケミカル、TDK、東洋エンジニアリング(2名)、東洋製罐グループホールディングス(2名)、TOYO TIRE、トッパン・フォームズ、トヨタ自動車、日揮、日揮グローバル、日産化学、日東電工、日本化薬、日本触媒、日本製紙クレシア、日本ゼオン、日本総合研究所、ハーベス、日置電機、日立プラントサービス(2名)、フィリップス・ジャパン、物質・材料研究機構、ブリジストン、ベネッセコーポレーション、マイクロメモリジャパン、丸善石油化学、三井E&Sマシナリー、三井化学東セロ、Mizkan J plus Holdings、三菱ケミカルエンジニアリング、村田製作所、森永乳業、ユーグレナ、横浜ゴム、ライオン・スペシャリティ・ケミカルズ、レイズネクス、ワールドインテック、進学/東京農工大学(5名)

【**機械システム工学専攻**】 IHI(2名)、iCAD、飛鳥特販、アズビル(2名)、SMC、NTTコミュニケーションズ、大林組、オカムラ、オプトラ、オリンパス、鹿島道路、カプコン、川崎重工業(3名)、小松製作所(5名)、水道機工、SUBARU(2名)、セイコーエプソン(3名)、セコム、竹中工務店、ディスコ、東京ロボティクス、トヨタ自動車、ニコン(2名)、日揮、日産自動車(3名)、日本電気、日本アイ・ビー・エム、ニューフレアテクノロジー、能美防災、パーソルR&D、パナソニックITS、日立製作所(3名)、日野自動車、ヒロセ電機、富士フィルムビジネスイノベーション(2名)、マイナビEdge、牧野フライス製作所、マツダ、ミツトヨ、三菱電機、メイテック、横河電機、リクルート、海上自衛隊、国土交通省、特許庁、進学/東京農工大学

【**物理システム工学専攻**】 オリンパス(2名)、カシオ計算機(2名)、キャノン(2名)、クレハ(2名)、構造計画研究所(2名)、小松製作所(2名)、芝浦メカトロニクス(2名)、シャープ(2名)、ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(2名)、TIS(2名)、テルモ(2名)、電気技術開発(2名)、トプコン(2名)、日本電気(2名)、東日本旅客鉄道(2名)、フクダ電子(2名)、本田技研工業(2名)、横河ソリューションサービス(2名)、横河電機(4名)、進学/東京農工大学(6名)

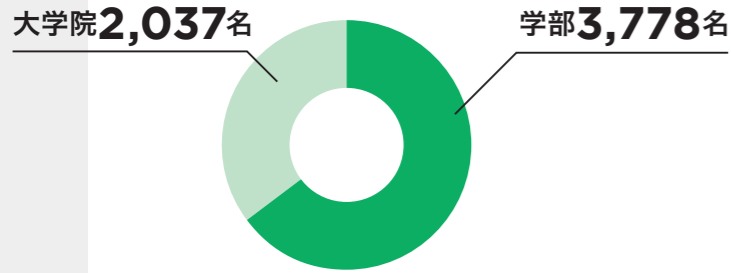
【**電気電子工学専攻**】 安藤・間、伊藤忠テクノソリューションズ、エヌ・ティ・ティ・データ、NTTデータソフィア、キャノン、キャノン電子、構造計画研究所、小松製作所、JVCケンウッド、シマノ、住友電気工業、セイコーエプソン(2名)、ソニー(2名)、ソニーセミコンダクタソリューションズ(2名)、ダイキン工業、ダイフク、ディスコ、Tianma Japan、東京エレクトロ、東京電力、トヨタ自動車東日本、トランスコスモス、日鉄ソリューションズ、日本電気(4名)、日本タタ・コンサルタンシー・サービス、野村総合研究所、P&Gジャパン、東日本電信電話、日立Astemo、日立国際電気、日立製作所(2名)、日野自動車、富士通クライアントコンピューティング、富士フィルムビジネスイノベーション、フューチャー、古河電気工業、北陸電力、堀場製作所、本田技研工業(2名)、三菱電機(2名)、村田製作所、横河計測、横河電機、LINE、リコー、ルネサスエレクトロニクス、進学/東京農工大学

【**情報工学専攻**】 アドソル日進、インテック、AGC、NTTドコモ、Goodnotes、コーエーテックホールディングス、コンピュータマインド、SATORI、JERA、住宅ソリューションズ、ソニーセミコンダクタソリューションズ、東京ガスエンジニアリングソリューションズ、東芝インフラシステムズ、日産自動車、日本電気、日本タタ・コンサルタンシー・サービス、任天堂、ネットワークシステムズ、バンドイナムコスタジオ、東日本電信電話、ビジュアル・プロセッシング・ジャパン、ファナック、VSN、フェイス、富士通(2名)、富士通エフサス、富士フィルム、本田技研工業(2名)、マイクロアド、三菱電機、ヤフー(3名)、読売新聞東京本社、菱洋エレクトロ、Link-U、防衛装備庁、進学/東京農工大学(3名)

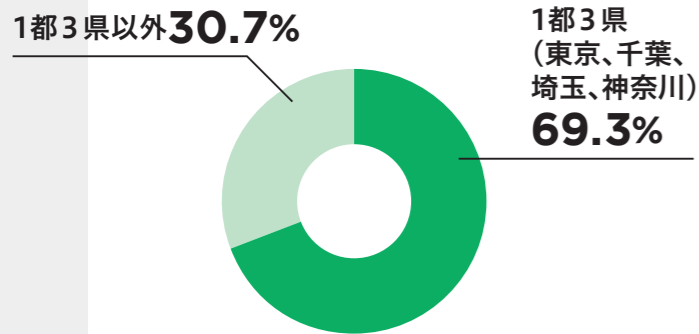
【**産業技術専攻**】 アドバンテック、アムジェン、出光興産、エクイニクス・ジャパン・エンタープライズ、NTTコミュニケーションズ、ENEOS、化学物質評価研究機構、カシオ計算機、キューピー、コニカミノルタ、コマツ、材料科学技術振興財団、J-オイルミルズ、スタッフサービス、住友化学工業、セイコーエプソン、生命科学インスティテュート、ソニーセミコンダクタマニュファクチュアリング、大日本印刷、高砂熱学工業、タグシス・バイオ、電気技術開発、東京航空計器、ニチコン、日産自動車、日本放送協会、日立チャンネルソリューションズ、日立パワーデバイス、富士電機、双葉電子工業、マツダ、丸山製作所、三菱電機(2名)、武蔵エンジニアリング、ヤマハ発動機、やまびこ、読売新聞東京本社、リオン、進学/東京農工大学

データから見えてくる 東京農工大学の「今」

学生数 **5,815名**



学生の出身地域



学生の男女比



大学に対する満足度

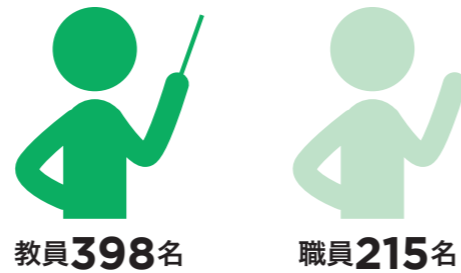
92.9% (2021年)

カリキュラムに対する満足度

87.7% (2021年)

※第10回 学生生活実態調査(2021年)

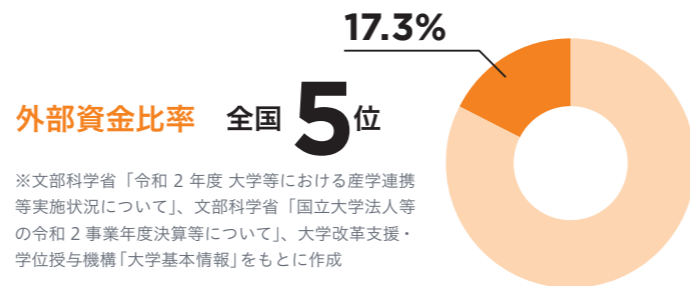
教職員数 **613名**



■ 研究データ (2022年)

教員当たりの民間企業との共同研究実施件数 **全国1位**

教員当たりの民間企業との共同研究費受入金額 **全国4位**



※文部科学省「令和2年度 大学等における産学連携等実施状況について」、文部科学省「国立大学法人等の令和2事業年度決算等について」、大学改革支援・学位授与機構「大学基本情報」をもとに作成

QSアジア大学ランキング2022

総合 国内 **25位**

教員あたり論文数 国内 **2位**

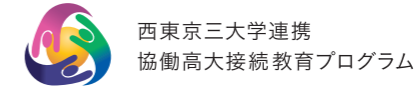
教員あたり被引用数 国内 **4位**

QS分野別世界大学ランキング2022

農林学(Agriculture & Forestry) 国内 **3位**

※QS = QS World University Rankings 2022

人文社会科学・理工学・農学の それぞれの専門性と 分野横断の協働の視点を持つ 実践型グローバル人材の養成プログラム



現代のグローバル社会が抱えるさまざまな課題を解決するためには、これまでの人文社会科学や理工学と呼ばれる枠組みを越えた分野横断型の発想が求められています。西東京地区にある東京外国語大学、東京農工大学、電気通信大学の国立三大学は近接して立地する条件を活用して、2017年度から人文社会科学・理工学・農学のそれぞれの専門性と同時に分野を横断して協働の視点を持つ実践型グローバル人材の養成プログラムを立ち上げました。

学部教育のグローバル人材養成の取組みでは、三大学の学部1・2年生の混成チームがそれぞれの大学の先進的な研究を体験する「三大学協働基礎ゼミ」の実施、また学部学生・大学院生が文系・理系の枠組みを越えて研究を発表し討論する「三大学合同コロキウム」などを実施しています。さらに大学院には、文系・理系の学生が協働してグローバルな課題解決の実践力を磨く「共同サステナビリティ研究専攻」を設置しました。

西東京三大学高校生グローバルスクールを開催

文系・理系の垣根を越えて、
世界が求めるグローバルな
思考を磨く2日間

高校生を対象とする高大接続教育プログラムでは、文系・理系の垣根を越えた「協働」を理解し、その実践を体験していただきたいと考え、「高校生グローバルスクール」を開催しています。2022年9月開催の夏季「高校生グローバルスクール」は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からオンラインでの開催となりましたが、2023年3月の春季開催は、東京を会場とした1泊2日の対面での宿泊プログラムを予定しており、三大学に在籍する学生もファシリテーターとして参加します。学校や地域を越えた高校生同士の学びや交流、さらに、ファシリテーター学生の新たな学びの可能性にご期待ください。

次回開催

2023年3月18日(土)・19日(日)

※現時点では宿泊プログラムを予定

